



文書館
もんじょかん
動物記

書庫に棲む動物たち

19

怪

「諸所風説書」に載せる「ヲソロ獅子（イヤラ獅子）」（毛利家文庫 29 風説 5）

しよしよふうせつがき

怪物にされた松平容保～「諸所風説書」

幕末期には情報に対する人々の欲求が高まり、「聞書」・「風説書」等と呼ばれる時事情報をまとめた記録が多く見られるようになります。瓦版等の印刷物は幕府等からの規制・制約も多く、当時の時事情報は落書（らくしょ）・張り紙・筆写本等の手書きの媒体を介して広まりました。そこからは、人々の風刺・反骨精神が強くなるかがえます。

上は、京都守護職として文久2年（1862）12月に上洛し、配下の新選組などを使って京の治安維持にあたった松平容保（かたもり）を痛烈に批判した落書で、その姿は怪物に描かれています。「其形馬ノ如く鹿ノ如ク（すなわち馬鹿）、異国之獅子ニ似タリ、依テ異人と大ニ中ヨシ（幕府の開国を批判）」とか、「餅三ツト箸シ片シ付ヤレハ、コハカリ逃ルコト妙ナリ（一に三ツ星家紋の毛利家＝長州を恐れる意）」など、さんざんな書かれようです。

容保は公武合体派の一員として、反幕府的な活動をする尊王攘夷派の弾圧にあたり、「文久三年八月十八日の政変」では萩藩の勢力を京から排除しました。

この落書はほかにもいくつか見つかっており、当時の京都界隈で数多く筆写されたようです。裏面にこの落書の全文と、その風刺の意味するところを表に示しました。

なお、当館の毛利家文庫「29 風説」には、幕末から明治初年にかけての風説書が数多く残っています。その中には誤報や流言、デマ等も含まれていますが、当時の人々が様々な情報を集め、比較検討しながら真実を知ろうとしたさまがうかがえます。

「幕末風聞書留」



京都府立総合資料館蔵。同館のデジタルアーカイブより転載。同じ落書を基にしていると思われる、ほぼ同じ文言です。怪物（容保）の顔が、会津の「会」になっています。

「諸所風説書」の原文	備考（風刺の内容）
近年、凶ノ如成ル獸、美濃ノ山中二生レ	* 容保の出身は美濃の高須藩で、会津藩に養子に入った。
夫ヨリ東国ノ深山ニ成長シテ後	* 会津藩に養子に入った田舎者の意。
田畑ヲ踏荒シ	* 重税を取り立て農村を疲弊させた意。
近比、山城ノ叡山之麓ニ来リ住ス	* 容保は京都守護職として上京し、比叡山の麓の金戒光明寺を本陣とした。
其形、馬ノ如ク鹿ノ如ク	* すなわち「馬鹿」の意。
異国之獅子ニ似タリ、依テ異人と大ニ中ヨシ	* 幕府の開国・開港を批判している。
今ハ其勢強くテ、顔ハ大キニして鼻高く	* 容保が大きな顔で威張り、天狗になっている意。
眼大クナレト不明、耳ハ至テ近ク	* 政治情勢に関して、目も見えず耳も聞こえないの意。
哲（惣力）身ハ青いケニシテ尾長ク	* 全身があおい毛（徳川氏の家紋の葵）すなわち徳川の威勢をまとい、尾長（尾張の徳川慶勝は松平容保の兄）である。
日々食ヲ求テ、空腹ナル時ハ「トロヲトロヲ」トナク	* 職（食）を求めて貪欲に活動している意か。
尤輿（轡力）ヲハメレハ尚々勢イ強クナリ	* 輿は轡の誤か。轡紋（丸に十字）は薩摩藩島津氏の家紋。薩摩の協力でますます増長した意。
或ハ花畠ニ戯レ、遠ク不動	* 禁門の変の際、容保は御所近くの花畠という地の屋敷で指揮をとった。
立花、鳶、伊賀栗、又ハ奉書、大イナル柿、栗（粟力）ノ餅ナトハ甚好ナリ	* 立花（橘）は彦根藩井伊氏家紋。第二次幕長戦争では先鋒。 * 鳶は松平一門の家紋。 * 伊賀栗（容保とともに京都で政治をとった板倉伊賀守勝静） * 奉書は福井藩松平氏。「越前奉書」や「越前鳥の子紙」は公家・武士の公用紙として重用された * 大いなる柿（大垣藩か） * 栗は粟の誤か。粟＝阿波（徳島藩）、または禁門の変で薩摩や会津に協力した中川宮朝彦親王（通称粟田宮）か
乍去此餅三ツト箸シ片シ付ヤレハ、コハカリ逃ルコト妙ナリ	* 一に三ツ星の毛利家紋。すなわち萩藩毛利氏を怖がる意
又モノニ恐レタル時ハ火ヲ吹出シ、人家ヲ焼荒シ、諸人難人（衍力）難儀ニ及フ	* 禁門の変の時、長州の残兵狩りのため会津藩士や新撰組が京都の民家に放火したとされることを指すか。この火事（「どんどん焼け」）は京都の三分の一を焼いた
上方ニテ「ヨソロ獅子」ト云	* 「恐ろしい獅子」
此獸禁物多シ、中ニモ藁荷（茗荷） タトン 蝶々 針（釘力）貫 柏ナトモ禁物之所	* 茗荷は佐賀藩鍋島氏の家紋 * タトン（たどん。黒丸）の家紋は福岡藩黒田氏。勤王藩 * 蝶々（蝶紋）は岡山藩池田氏の家紋。勤王藩 * 針（釘力）貫（どの大名家か不詳） * 柏（三ツ柏紋）は土佐藩山内氏の家紋
近比は鷹羽 九ツ団子ノナトカ嫌ヒ候由	* 鷹羽は広島藩浅野氏の家紋。第一次幕長戦争の時の幕府との仲介役。 * 九ツ団子（九曜紋）は熊本藩細川氏の家紋
何分一体「イヤラ獅子」ト云	* 「いやらしい（不快な、嫌な）獅子」
嫌ヒノ此獸殺サルレハ、日本国中ノ人悦ビテ、内（肉力）モ骨モ粉ニ碎テ食ハント欲ス	* 殺されたら日本国中が大喜びで、八つ裂きにして食おうと望んでいる
依テ、「キャウノ死後食」ト云	* よって、「キャウノ死後食」（京の守護職）という